

GAKKO
GOKKO

先生にチャレンジ！

「学校ごっこ」で

CASE 05

近隣にある学童の生徒たちに協力してもらい
模擬授業「学校ごっこ」で授業作りを体験する

1年次では何も分からないまま試行錯誤で
小学生向けの「授業を作る」ことを体験し、
2年次では、1年生を指導しつつバックアップする立場に。
自分が1年生だった時に先輩から受けたサポートを思い出し、

教員にとって必要なことを考えながら
実践能力をアップさせることを目的に
自分自身の成長にもつながることに
思いっきり挑戦しています！



石川 杏
こども文化学科 2年次
北谷高校出身

An
Ishikawa

DISCOVERY!

一発勝負の模擬授業は

緊張するけど最高の経験



こども文化学科は小学校の先生を目指す人たちが多く、普段はどうやって国語や社会を教えるか、というような教育法を勉強しています。ゼミでは、1年次で「学校ごっこ」という模擬授業を全員でやります。2年次になると、1年次が「学校ごっこ」を実施できるよう、学童に協力依頼をかけたり、どんな授業が魅力的かを一緒に考えてサポートする側に回ります。

私は今2年次で、1年次の時に経験しているのですが、あの時は何も分からないところからのスタートだったので、先輩方からのアドバイスをもとに授業作りをしました。「学校ごっこ」は近隣の学童の子どもたちに協力してもらい、実際の授業を行います。教室に入



学童に通う小学生たちを招いて行う「学校ごっこ」の様子。子どもたちが興味を持つ内容を考え、楽しみながら学べる工夫をたくさん考えて臨んだこともあり、小学生たちの反応は上々。先生役が一方的に話すだけでは退屈してしまうので、一緒に活動しながら学んでもらうためのアイテムもたくさん用意。

ちは道徳を選んで、「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」をゲームをしながら学べるように考えて授業をしましたが、本番の前に2年次に見てもらって意見をもらうのは緊張しました。

でも、今度は自分が2年次になってサポートする側になると、なんとなくしか分かっていなかったことがみえるようになり、今度はどういうふうに伝えたら1年次がもっと良い授業を作れるようになるか、という視点で考えられるようになりました。ふんわりと授業を作る、という感覚から、具体的にやるべきことが見えて来たり、工夫する点が分かるようになったことは自分でも驚きました。

1年次に指導をするときも、あまり言い過ぎると、それは2年次の考えた授業になってしまうので、1年次のやりたいことを実現できるように考えながら、でももっと良い授業になるようにサポートしています。「学校ごっこ」は教員を目指す人にとっては、子どもたちのリアクションを目の前で見る事ができるし、大変だけどすごくいい経験だと思っています。

先輩からのダメ出しも励ましも

すべて成長につながる



FIELD WORK